

2025

11
November

No.275

JAとまこまい広域

燃
え
る
火

SANSAN
光り輝く

特集

JAとまこまい広域が新米贈呈を行う
常勤役員らが関係機関を訪問

長いも収穫の様子(穂別)

JAとまこまい広域広報誌
燃々光り輝く
No.275

■編集・発行■

〒050-0160
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-277-2241
FAX 0145-277-2241
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
令和7年11月10日

ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomai-kouiki.com
メールアドレス
info@ja-tomakomai-kouiki.com

田舎 ■ 株式会社 須田製版

①調理時間
30分

休日に丁寧に作りたい、栄養たっぷりごはんレシピ

JA上伊那生活部会（長野県）
が作りました！

たっぷり野菜と 魚介のうまい！ 和風ブイヤベース

寒い冬に、心も体も温まるメニューを♪味つけもシンプルで何度も作りたくなるレシピです。



材料（4人前）

・アサリ（殻付き） 200~300g

A
・エビ（殻付き） 8尾
・生タラ 2切
・シメジ 1パック
・ハクサイ 300g
・タマネギ 中1個

・ミニトマト 7~8個(150g)

B
・ネギ 小1本
・ニンニク 1片
・サラダ油 大さじ1
・白だし 70ml
・水 550ml

01

アサリはしっかり砂出しをする。砂出したらきれいに洗い、水を切っておく。



02

エビは殻の隙間から串を刺し、背ワタを取り。生タラは半分に切り、塩を少々振っておく。



03

ハクサイはひと口大の大きさに切る。タマネギはくし形（8等分くらい）、シメジは5~6本の小房に分ける。ミニトマトはへたを取る。ネギはみじん切り、ニンニクは粗めのみじん切りにする。



04

鍋にサラダ油を入れ、ニンニクを弱火で炒め、次にネギを加えて中火で炒める。香りが立ってきたらタマネギを入れ、しんなりしたらBを注ぎ入れ、沸騰してたら、Aを加える。再び沸騰したら、アサリとミニトマトを加えて弱火で6~7分ふたをして煮る。



ワンポイント！

ムール貝や鯛に具材を変えるなど、さまざまなアレンジが楽しめます。締めは雑炊でも、麺でもおいしいですよ♪

火祭ひまつり

SANSAN
光り輝く

No.275 CONTENTS

- 01 特集 JAとまこまい広域が新米贈呈を行う
常勤役員らが関係機関を訪問
 - 03 カメラレポート
 - 07 農協法公布記念日にあたって
 - 08 期待の農力 石橋亮汰さん
 - 09 ワンポイント営農情報
 - 10 あぐり講座
 - 11 ·理事会報告
·組合懇親会のお知らせ
 - 12 JAからのお知らせ
 - 13 JA共済アプリ
携帯電話番号のご登録を、お願いいたします
- 裏表紙 休日に丁寧に作りたい、
栄養たっぷりごはうびレシピ



10月下旬より収穫が始まった穂別産いも。



▲むかわ町への贈呈



▲厚真町への贈呈



▲安平町への贈呈



▲白老町への贈呈



JAとまこまい広域が新米贈呈を行う 常勤役員らが関係機関を訪問

JJAとまこまい広域は9月30日～10月1日、役職員らが管内の行政（苫小牧市・白老町・安平町・厚真町・むかわ町）や各関係機関を訪れ、主力品種のななつぼしを使用した独自ブランドのJAとまこまい広域産「たんとうまい（胆東米）」、厚真産「さくら米」、穂別産「雪瑞穂」などの新米を約600kg贈呈した。

30日前、石橋公昭専務らがむかわ町役場を訪問し、穂別産「雪瑞穂」50kgを竹中喜之町長へ手渡した。贈呈後、本年産の農畜産物の生育及び販売状況を説明し、米価高騰や高温傾向が続く中で、同地区で生産された米は今年も安定した品質で変わらない美味しさを提供できているとPR。贈呈された新米は同町の子ども園などで振る舞われる予定だ。その他、穂別地区にある社会福祉法人愛誠会や苫小牧広域森林組合でも新米贈呈を行った。なお、石橋専務らは同日午後に安平町へ訪問し贈呈を実施、及川秀一郎町長と教育委員会に「たんとうまい」75kgを贈っている。

翌日1日、堀組合長や松原正明常務、堀田昌意厚真地区担当理事らが厚真町役場を訪れ、厚真産「さくら米」50kgを宮坂尚市長と厚真町教育委員会へ贈呈した。本年産の作況のほか米を取り巻く政策や流通の現況、系統JAとしての対応などが話し合われ、地域農業を維持していくため議論を深めた。教育委員会へ贈呈された新米

は小中学校の給食で提供される。その他町内では厚真町福祉会とごぶの湯、浜厚真の北電苫東厚真発電所で新米を贈呈した。同日には石橋専務らが白老町役場へ訪問し、「たんとうまい」50kgを贈呈。大塙英男町長が受け取った。

本年産の水稻は、春先の天候不順や夏場の猛暑、暴風雨の被害を受けるなど大豊作とはいかないものの平年作並の出来秋を迎えることができた。美味しさの指標であるタンパク含有量はやや高めの傾向を示すものの、登熟期の温度が高く炊き上がりが粘りのある柔らかな米に仕上がっている。

全国的に米の集荷競争が激化し、価格が吊り上がりつつあるなかで「令和のコメ騒動」以降の消費離れが懸念されている。JAでは良質米生産への積極的な取り組みや系統が行う全道共同販売事業の中で、道外量販店からの産地指定を受け、オリジナルパッケージで販売されるなど熱心な生産販売を展開。販売力強化に努めている。前述のJAとまこまい広域は、管内の学校給食や福祉施設、宿泊施設、飲食店を中心に幅広く利用され、A「コープや苫小牧市内のホクレンショッピングセンター」、「安心・安全」はもとより、「たんとうまいステーション」をはじめとする各施設や低温倉庫の運営管理等、安定した供給体制に万全を期す姿勢だ。

地域の話題を
パチリと

カメラレポート



▲○×クイズで勝ち残った5名にアサヒメロンをプレゼント(安平町で)

胆振管内JAとまこまい広域は10月5日、第7回JAとまこまい広域杯少年サッカー大会を開催した。大会には同じJA管内のほか室蘭や伊達などから8チーム、過去最多の196名の選手が参加、サッカー大会を通じてJA及び農業に対する関心を深めた。



▲メークインの袋詰めの様子(安平町で)

広域

農業への関心を深める

第7回JAとまこまい広域杯少年サッカー大会

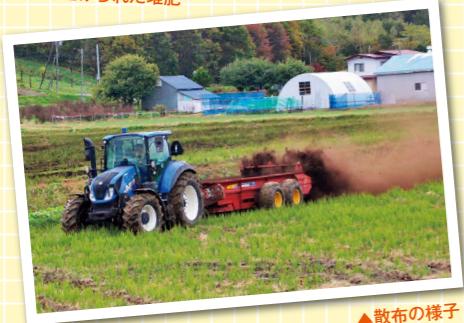
胆振管内JAとまこまい広域は10月5日、第7回JAとまこまい広域杯少年サッカー大会を安平町のはだしの広場で開催した。大会には同じJA管内のほか室蘭や伊達などから8チーム、過去最多の196名の選手が参加、サッカー大会を通じてJA及び農業に対する関心を深めた。

試合前には景品を懸けた○×クイズを実施。参加した少年らは出題された農畜産物に関する問題に頭を悩ませながらも終始楽しんだ様子で取り組み、最後まで勝ち残った5名に安平町特産のアサヒメロンが手渡された。また、厚真町で収穫されたばかりのメークインの袋詰めを開催した。

同大会は地元サッカーチームと連携し、次世代を担う子どもたちや親世代をターゲットに農業やJAと地域との関係性についてその重要性を伝えることを目的に、「食育」活動の一環として、2016年から開催している。



▲積み上げられた堆肥



▲散布の様子

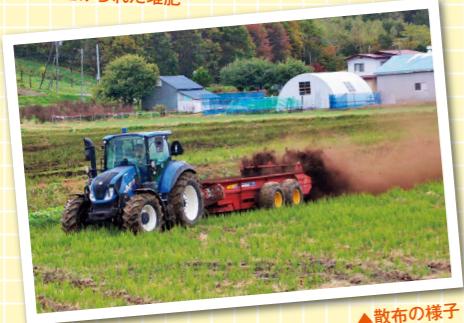
広域

耕畜連携・堆肥のマッチング♪

JAとまこまい広域農業振興本部



▲積み上げられた堆肥



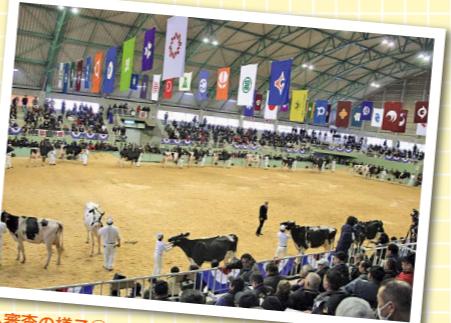
▲散布の様子

JJAでは春、秋口にかけ堆肥購入と散布依頼の取りまとめを行っておりますが、平時の受付も行っておりますので、希望の方は農業振興本部(窓口は営農部)、もしくは最寄り支所の資材燃料課へお問い合わせください。

去る10月16日、厚真町東和地区にて堆肥のマニアスプレッター散布が行われた。JAとまこまい広域では農業振興計画である「JAプランVII」の重点取組事項として耕畜連携事業による生産基盤の強化に取り組んでおり、その一環として堆肥の斡旋やマッチングに力を入れている。令和5年には苦小牧市植苗地区の美沢地区の「ファームHFT」と業務提携を行い、堆肥散布のコントラクター事業もスタートした。

今回の堆肥散布は、依頼者である厚真町東和地区、太田幸宏さんの水稻収穫跡地、約6ha。事前に株式会社HFTより120t(約60t)の完熟堆肥の供給を受けた。作業前日にファームHFTのトラクター、マニアスプレッター、ホイルローダー各1台が現地に搬入され、当日の散布は同社の坂田場長が請け負った。(株)厚真ファームの堆肥は非常に良質で、完熟しておりサラサラの状態。臭気もほぼ無く作業は順調に行われるかに思われたが、秋口の不安定な天候も相まって圃場の渴きが悪く、作業は複数日に渡った。今後は厚真町で他1件の散布が予定されている。

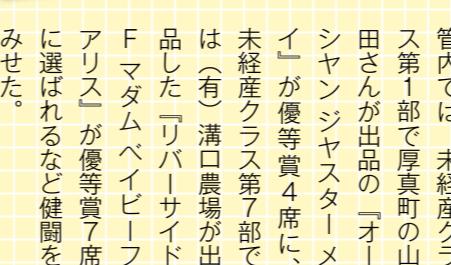
土壤診断を踏まえた堆肥の投入は、緩やかに供給される肥料成分为化学肥料の一部を代替し、施肥量を減らすことにより収量や品質を維持しながらコスト削減に繋がる。また、団粒構造の形成による土質改善効果を期待できることから、次年度に向けた投資の一つとして広くお奨めしたい。



▲審査の様子①



▲審査の様子②



▲審査の様子③

大会では、初日に月齢に応じた1~6部のホールスタイル未経産牛のクラス、7~13部の同種経産2~3歳のクラスの審査が行われ、各部トップの「名譽賞」をそれぞれ選出。翌26日、ホールスタイル4歳以上とジャージー種の審査の後、全体

のチャンピオン「最高位」が決定した。最高位には遠軽町の木村吉里さんが経産クラス第16部に出品した『サニーワン・アイストローマツカチエ』が輝いた。管内では、未経産クラス第1部で厚真町の山田さんが出品の『オーシャンジャスター・メイ』が優等賞4席に、未経産クラス第7部では(有)溝口農場が出品した『リバーサイド・マダムベイビー・アリス』が優等賞7席に選ばれるなど健闘をみせた。



▲審査の様子④

JAとまこまい広域管内から3頭が出品

広域

第16回全日本ホールスタイル共進会

JAとまこまい広域が
レース副賞で米を提供

広域

「国産国消! JA日胆青協・紡」特別

日胆地区農協青年部協議会(渡部大樹会長)は10月16日、門別競馬場で開催の「メインレース「国産国消! JA日胆青協・紡」に協賛。JAとまこまい広域青年部(未政知和部長)は副賞品として同JA産3点米セット(玄米・雪瑞穂・ゆめぴりか)を提供した。

中央・地方競馬で出走する競走馬の多くが日胆地区で生産されることから、同地区を盛り上げPRすることを目的にレース協賛の実施と、単組盟友の交流を図るイベント。各単組より副賞品として



▲表彰式の様子



▲記念写真



▲集合写真を撮影

10月26日、JAとまこまい広域青年部厚真支部（藤本貴則支部長）は、ホクレンショップ苦小牧店にてあつま新鮮組（厚真町内の商工会・漁協・農協の各青年部による連絡協議会、渡部勇樹会長）主催による「あつま特産市」に参加した。当団体より合わせて25名が参加し、厚真町のPRを行った。

今年は令和2年以来、5年ぶりにホクレンショップ苦小牧店での開催となつた。今年は令和2年以来、5年ぶりにホクレンショップ苦小牧店での開催となつた。開催をかねてより待ち望んでいた方もおり、大変喜ばれていた。参加した青年部員は、「自分たちの町の特産品を喜んでもらえる方がいて、農作業のモチベーションに繋がる」と話した。



▲今摺り米のサービスを行う青年部員

厚真

商工会・漁協・農協の青年部が 共同で厚真町をPR

あつま特産市 in ホクレンショップ苦小牧店 開催

10月26日、JAとまこまい広域青年部厚真支部（藤本貴則支部長）は、ホクレンショップ苦小牧店にてあつま新鮮組（厚真町内の商工会・漁協・農協の各青年部による連絡協議会、渡部勇樹会長）主催による「あつま特産市」に参加した。当団体より合わせて25名が参加し、厚真町のPRを行った。

店頭で精米し枠によるすくい取り計量販売を行つ当イベントの目玉である「今摺（いますり）米（まい）」コーナーでは、青年部員による特大サービスもあり精米しての新米を求める人々で大いに盛り上がつた。購入した方々は大いに満足そつにしており、中には今回の開催をかねてより待ち望んでいた方もおり、大変喜ばれていた。参加した青年部員は、「自分たちの町の特産品を喜んでもらえる方がいて、農作業のモチベーションに繋がる」と話した。

た。当日は時折雨が降るあいにくの天気にもかかわらず、厚真産の特産品を買い求め、多くの方が足を運びにぎわつた。

店頭で精米し枠によるすくい取り計量販売を行つ当イベントの目玉である「今摺（いますり）米（まい）」コーナーでは、青年部員による特大サービスもあり精米しての新米を求める人々で大いに盛り上がつた。購入した方々は大いに満足そつにしており、中には今回の開催をかねてより待ち望んでいた方もおり、大変喜ばれていた。参加した青年部員は、「自分たちの町の特産品を喜んでもらえる方がいて、農作業のモチベーションに繋がる」と話した。



▲モーター式脱穀機に挑戦



▲昔ながらの道具で学ぶ脱穀



▲機械とともに学ぶお米作り

地域の話題を
パチリと

カメラレポート



手から学ぶ、米作りの知恵！

追分米生産振興会協賛 追分小学校5年生「米作学習」脱穀・糲摺り・精米

安平町追分では、10月1日（水）、安平町ふるさと学習・学社融合推進事業の一環として追分小学校5年生児童を対象にした「米作学習」が追分米生産振興会の武田忠雄さん宅で開催された。

秋晴れの空の下、児童達は5月の田植え、9月の稲刈りに続く米づくり体験の最終ステップとして脱穀・精米までの作業に挑戦。春から子どもたちの学びを支えている武田さんの指導のもと、一連の作業を順に体験した。

まず挑戦したのは、昔ながらの「千歯こぎ」。一粒ずつ丁寧に糲を外す作業に、子どもたちは「力加減が難しい」と額に汗をにじませながらも笑顔を見せた。続いて「足踏み脱穀機」では、リズムよく足を踏みながら糲を回転させる仕組みに

「昔の人は工夫していたんだ」と驚きの声をあげた。最後は「モーター式脱穀機」で、近代的な機械の力に「すごく速い！」と歓声が広がつた。

糲摺りを終え、仕上げに武田さん所有の精米機で白米へと変わった様子を観察。「黄金色の糲が真っ白なお米に変わるのが不思議」と子どもたちは目を輝かせた。

ある児童は「自分たちで植えて刈つて精米したお米を食べるのが楽しみ。農家さんの苦労を感じた」と話し、仲間と達成感を分かち合つ姿が印象的だった。田植えから収穫、そして精米に至る一連の体験を通じ、児童たちは米づくりの知恵と手間を肌で学んだ。この学びが、食や農業への感謝の気持ちをより一層深める貴重な経験となつた。

追分

心を満たした秋の研修！

令和7年度 女性部追分支部 日帰り研修

10月23日、女性部追分支部は恒例の研修を実施した。日頃の農作業や家事で蓄積した疲れを癒やし、部員同士の交流を深めることを目的として毎年開催している。

今年は11名の参加者が集まり、札幌方面を訪問し学びとりフレッシュの一日を過ごした。

午前中は北海道大学総合博物館を見学した。自然科学から人文科学まで幅広い分野を網羅した展示に触れ、知的好奇心を大いに刺激された。日頃農業に携わる部員にとって、普段接することの少ない

学術的な資料や標本は新鮮で、農業と学問の繋がりを改めて感じたとの声も上がった。

その後、札幌グランンドホテルで優雅なランチを堪能した。歴史あるホテルの落ち着いた空間と心のこもった料理に、部員たちは心身ともに癒やされた様子だつた。午後は二条市場を自由に散策し、旬

魚や海産物や土産品を選びながら札幌ならではの活気ある雰囲気を満喫した。



▲研究者になった気分で

谷口支部長は「普段、農家として忙しい日々を送る私たちにとって、この研修は大切なリフレッシュの場。仲間と語らしながら新しい学びと癒しを得られ、今後の活動への活力となつた」と語った。参考した部員からも「心がほぐれ、明日からまた頑張れる」「仲間とゆっくり過ごせて嬉しい」といった感想が寄せられた。

農業を支える女性たちが学びと交流を重ねるこの取り組みは、地域の絆を一層強め、次への活力を育む貴重な機会となつた。



▲秋色に染まるキャンバスで



▲「面白かった」と大好評のカボチャクイズ



▲青年部員といっしょにハロウィンらんたんを作成



◆完成した作品と一緒に集合写真

穂別

とまこまい広域農協青年部穂別支部 合同会社GCSがイベントを開催

ハロウィンを楽しもう♪ハロウィンらんたん作り教室 in 穂別

10月11日、むかわ町穂別アースギャラリーにて、合同会社GCS（三上誓人代表）主催、青年部穂別支部（中澤誠弥支部長）協力の「ハロウインらんたん作り教室 in 穂別」が開催された。

当日は天候に恵まれ、青年部員が用意した「カボチャクイズ」と「ハロウインカボチャの加工体験」に親子連れ、約30人が参加し、会場を大いに賑わせた。

この企画は、同社の子育て応援事業「むかこみゅ事業E-HAPPY PROJECT」の一環で、町内の0歳～小学生、その保護者を対象に自然・アクティビティ・創作・伝統文化を体験するイベントを開催している。今回は、物作りを楽しむこと、カボチャについて学ぶことが目的。

部員がスクリーンの前に出て、穂別で

作付されているカボチャについて学んでもらうために、クイズを出題した。どの問題もユニークな内容ばかりで、子供達は元気よく手を挙げ答えていた。

また、教育を兼ねて、3品種食べ比べクイズやデザートも振る舞われ、子供たちは満面の笑みを浮かべていた。

最後に、ハロウインカボチャに思い思いの「デザイン」を描き、スプーンで中身を取り出し、目や口をくり抜いた。力が必要な時や刃物を扱う場面では、青年部員が積極的に協力しながら、作品を完成させた。

参加した子供達は、「ひつけ問題が楽しかった」「くり抜くのが楽しかった」「面白かった、次もやりたい」と嬉しそうに感想を語った。

追分



手から学ぶ、米作りの知恵！

追分米生産振興会協賛 追分小学校5年生「米作学習」脱穀・糲摺り・精米



いし ばし
りょう た
石橋 亮汰さん(28歳) 厚真町宇隆

実際に就農して
農協の施設でアルバイトをしながら、家業を手伝つた1年目につ

今後の目標

「まずは農業経営について知識を深めていきたい。農作業についても、播種から収穫を適切なタイミングで行い、施肥や防除の管理作業を自身の判断で行えるようになる必要がある」と亮汰さんは語る。代々受け継がれてきたものを守つていくべく、今後も邁進する模様だ。

「就職してサラリーマンとして生活していくなかで、コロナ禍もあり将来について不安を抱いていた」と語る亮汰さん。都会での暮らしに見切りをつけ、農業を嘗む実家へ戻ることを決意したと當時を振り返つた。

実際に就農して

技術や機械など、新しいことには積極的にチャレンジしたいと意欲をみせる。

平成8年12月27日、父・公昭さんと母・実穂子さんの長男として厚真町宇隆で生まれる。苦小牧東高校を卒業後、上京し日本大学へ進学。IT関連の企業へ就職したのち地元へ戻り農業に携わることを決意する。就農から4年目の現在は、水稻17ha、小麦3ha、大豆3ha、南瓜2haを生産している。

農業を志したきっかけ

「やりがいについて問うと亮汰さんは『作物がうまく育ったなかつたりも楽しんで従事できた。青年部にも所属したが、集まる機会が多くはないものの、農業のことを話す仲間の相手がいることは非常に楽しかった』と語る。2年目以降、年々考えることが増えている。困惑する場面にも多く直面する」と苦悩しながらも着々と経験を積んできた様子だ。

農業のやりがい

『農協法公布記念日にあたって ～令和7年11月19日～』

とまこまい広域農業協同組合代表理事組合長 堀 弘幸

昭和22年11月19日に農協法が公布され、78年目を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的・社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し今日に至っています。

近年の農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増す中、世界的な気象変動は当管内においても、猛暑や集中豪雨により農地や各作物等に大きな被害が発生しました。また、国際的な食糧需給事情の変化や急激な円安の進行による生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えております。

昨年は、農政の憲法とも言われる食料・農業・農村基本法が改正され、一人一人の食料安全保障の確保と環境と

調和のとれた食料システムが基本理念として位置づけられるなど、世界の食料需給の不安定化による輸入リスクの増大、環境問題等を踏まえた内容となっており、日本の農政は大きな転換点を迎えてます。この事からも、国民が必要とし消費する食料はできるだけその国で生産する「国消国産」は、消費者に知って頂きたい大切なテーマであり、農畜産物を取り扱う、我々役職員にとっても実践していかなければなりません。

最後になりますが、この厳しい時代だからこそ、当JAは、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる事、また、地域農業の発展に全力でサポートする事をお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたっての訓示といたします。





来年度の 水稻栽培にむけて

倒伏対策について

令和7年度は倒伏が目立ちました。倒伏した稻は受光体勢が悪くなることで転流が阻害されます。それにより、粒厚が小さくなることで、減収・品質低下となります。

倒伏させない稻作りには、ほ場の状況に応じた適切な対策が重要になります。

表 倒伏の原因に応じた対策例

原因	ワキ(土壤還元)による根の活力低下・根張り不足	紋枯病・疑似紋枯症	窒素過多による過繁茂
ほ場の状態			
対策	① 中干しの実施 ② 鉄成分の補給	③ 発生程度に応じた薬剤防除	④ 全層施肥から減肥、または側条割合を増やす

対策のポイント

- ① 中干しは3~5日間とし、土壤表面に軽いヒビが入る程度としましょう。期間が長いと大きな亀裂があり、断根のリスクがあります。
- ② 鉄成分含有のケイ酸質資材を施用しましょう（例：スーパーミネカル、テツシリカ100~200kg/10a程度）。
- ③ 有効な薬剤の例として、ミネクトフォルスターSC（育苗かん注）、ブーンレバード箱粒剤（箱処理）、リンバー粒剤（本田水面施用）があります。
- ④ 安易な減肥は収量低下につながるため、窒素過多で倒伏していると考えられる場合に行いましょう。側条施肥の割合は3~4kg/10aの範囲としましょう。減肥の目安は、JAまたは普及センターへご相談ください。

ワンポイント営農情報 東胆振地域における土壤の特徴

東胆振地域の土壤は、礫を含む火山性砂壤土が多く分布しています。火山性土で粒質が粗いほ場ではCECは7~12に近い数字となります。



令和7年度土壤分析を集計した結果、CECは7~14に集中しています。
東胆振の土壤の特徴です。
※18を超える数字は堆肥の混入や施設園芸が考えられます。

CECとは
土壤が陽イオンを吸着できる能力。粘土鉱物や腐植含量によって規定され、それらが多いほど数値が大きくなります。CECは土壤そのものの特徴を表します。



シリーズNo.61 おいしい米づくり

～令和7年の主な水稻病害虫の発生状況(その1)～

1 育苗中の障害

本年は、種後に急激な高温が少なく、障害や病害の発生は少なかった。近年、育苗の省力化に向けた形状の箱や資材が導入されていますが、不慣れな管理による生育不良が見られています。資材の特徴を、十分理解した上で、効率的作業につなげて下さい。

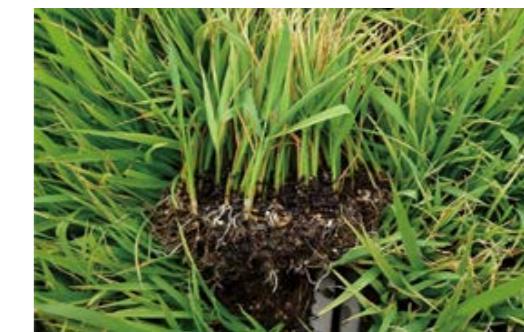


写真1 育苗中のムレ苗

2 初期の害虫

本年も、イネドロオイムシやイネミズゾウムシの発生は、全般では目立った発生とはなっていませんが、内陸部ではイネドロオイムシの多発生ほ場が見られました。



写真2 すくいとりしたカメムシ

3 ウンカ類

すくい取りでも発生はほとんど見られませんでした。

4 アカヒゲホソミドリカスミカメ

高温年ではあったが、発生量の急激な増加は見られませんでした。出穂後の水田内すくい取りでも、要防除とはなっていませんが、生育と防除のタイミングがずれていたほ場では、水田内の繁殖も見られました。

JA日誌

2025 11月

16日(日) 北海道教育大学合同企業説明会(WEB)

17日(月) 4地区合同役員研修会(函館)

18日(火) 第20回 広域女性部「女性の集い」(厚真)
北海道花き生産連合会 花き流通セミナー(札幌)19日(水) 日胆地区JA青年部研修大会(苫小牧)
農協法公布記念日(WEB)

20日(木)

21日(金) 第10回 企画会議

22日(土)

23日(日) 勤労感謝の日(祝)

24日(月) 振替休日

25日(火) JA道女性協国内農業視察研修(九州方面) ~28日

26日(水) 第3回 管理委員会
第4回 生産委員会27日(木) 第6回 地区担当理事会 第11回 理事会
厚真町産新米PRとポジョレの夕べ(厚真)28日(金) 第4回 施設再編検討委員会 厚真中央小学校3年生 厚真ふるさど学習(おふくろみち)
JAとまこまい広域和牛振興協議会 視察研修 JAバンク経営者フォーラム(東京) ~29日

29日(土) 令和7年度 北海道枝肉共助会 黒毛和牛部(帯広)

30日(日)

2025 12月

1日(月) JA/バンク本部委員会(札幌)
第3四半期監事監査 ~2日

2日(火)

3日(水) JA日胆地区女性部研修会(苫小牧)
JA役員道外研修(沖縄) ~5日

4日(木) 第74回 全道JA青年部大会(札幌) ~5日

5日(金) 厚生連理事会(札幌)

6日(土)

7日(日)

8日(月) 第5回 共済連運営委員会(札幌)

9日(火)

10日(水) ホクレン牛市場
JAバンク4地区委員会 ~11日

11日(木) 組合員懇談会(早来・厚真)

12日(金) 組合員懇談会(白老・追分・穂別)
ホクレン乳牛市場

13日(土) 苫小牧消費者協会60周年記念式典(苫小牧)

14日(日)

15日(月) 新任理事研修(JAカレッジ) ~17日

当JAから「ゆめびりかの巨匠」が選出

穂別の石崎憲一さんが、「ゆめびりかの巨匠」に選ばされました。

「北海道米の新たなブランド形成協議会」では、タンパク値6.8%以下のゆめびりか出荷数量比率が全道平均値を上回る生産者に「優秀表彰」を、「優秀表彰」を5年連続受賞した生産者には「ゆめびりかの匠」として認定していました。10年目を迎えた今回、「優秀表彰」を10年連続で受賞された生産者を対象に、新たに「ゆめびりかの巨匠」を設け、石崎憲一さんを含む9名の生産者が認定されました。

お詫びと訂正

10月号のお悔みにて、掲載のお名前に誤りがございました。

(正) 西川 初男さん
(誤) 西川 初雄さん

ここに訂正するとともに、関係者の皆さまに深くお詫び申しあげます。

お悔やみ

謹んでご冥福をお祈りいたします。

月 日	地 区	氏 名	享 年
9/28	厚真町	角田 弥生さん	93
10/1	安平町	佐々木 由利子さん	66
10/6	安平町	大井 咲子さん	95
10/8	安平町	水橋 富雄さん	101
10/17	安平町	菅原 キミさん	93
10/19	厚真町	長谷 誠良さん	85

ホクレン南北海道黒毛和種市場
広域農協支所別取引成績(11月)

令和7年10月8日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白 老	去勢	36	728,278	1.188	2.151
	雌	11	612,455	1.038	1.933
早 来	去勢	25	703,040	1.170	2.009
	雌	13	597,154	1.040	1,807
厚 真	去勢	14	668,286	1.181	1,970
	雌	17	615,765	1.061	1,913
穂 別	去勢	30	681,900	1.183	2,017
	雌	12	637,083	1.068	1,970
追 分	去勢	9	652,000	1.074	1,905
	雌				
とまこまい 広 域	去勢	114	697,149	1.172	2,043
	雌	53	615,340	1.052	1,903
胆 振 管 内	去勢	202	705,975	1.164	2,066
	雌	119	608,017	1.050	1,894
市 場 計	去勢	837	684,913	1.158	2,018
	雌	598	575,538	1.033	1,824

理事会報告

令和7年10月23日(木)に総合営農センターで第10回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。



- 一般報告と当面する諸行事について
- 8・9月末財務報告について
- 組合員の異動について
- 固定資産の取得・処分について
- 第2四半期定期監査の結果について
- 第2四半期定期監査報告に係る回答について
- 現金及び棚卸資産の管理に係るJA自主点検の取組結果について
- 令和7年度4地区合同JA役員会研修会の開催について
- 令和7年度JA農業経営緊急支援資金に係る資金対応について
- JA共済コンプライアンス点検結果について
- 9月暴風雨被害の集計について
- 農産物の集荷状況について
- 家畜共進会・枝肉共励会の結果報告について
- 令和7年度北海道報徳(善行賞)受賞候補者の推薦について
推薦支所:追分支所【R6年度 穂別支所 藤岡 孫一 氏】
- 11月1日からの営業時間の変更について



- 役員選任・総代選任日程について



- 議案第1号 有価証券減損処理要領の一部変更について
 議案第2号 自己資本比率算出要領等の改定について
 議案第3号 カスタマーハラスメント対策基本方針・対応要領・対応マニュアルの制定について
 議案第4号 出資の減口と譲渡について
 議案第5号 理事への貸付について

~組合員懇談会のお知らせ~

令和7年度冬季組合員懇談会が、以下の日程で開催されます。JA決算見込みをはじめ、生産販売概要、生産資材情勢など、各種の意見交換を予定していますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

ご不明な点やお問い合わせにつきましては
お近くの事務所までご連絡下さい。

支 所	開催日	開始時間	会 場
白老(苫西)	12月12日(金)	10:00~	白老町コミュニティーセンター
早来(苫東)	12月11日(木)	10:00~	早来支所
追 分	12月12日(金)	14:00~	追分支所
厚 真	12月11日(木)	14:00~ 18:00~	厚南会館2F 営農センター
穂 別	12月12日(金)	18:00~	穂別支所

携帯電話番号のご登録はお済みですか？

ご契約者の
皆さんに重要な
お知らせ

安心を、いつでも手元に。

JA共済アプリ

加入後の保障内容は、つい忘れてしまいがち。
でも、もしもの時に確認や連絡ができると、
生活の立て直しに時間がかかることも。
JA共済アプリが、あなたの手元に安心をお届けします。

災害時も安心の
サポートが受けられる



新規登録方法 初めてご利用の方はこちらから

STEP 01
安心を、
いつでも手元に。

STEP 02
JA共済ID登録
JA共済の各種サービスのご利用には、メールアドレスとパスワードの登録が必要となります。ご利用にあたり、メールアドレスを入力してください。
メールアドレスの正確性を確認するために、入力いただいたメールアドレスに認証コードを送信させていただきます。

STEP 03
JA共済 JA共済アプリ
認証コードの確認
入力いただいたメールアドレスまたは携帯電話番号宛に送信された認証コードを入力してください。

STEP 04
メールアドレス（JA共済ID）必須
kyosai.taro@ja-kyosai.or.jp
パスワード 必須
パスワード（表示）
パスワード（確認） 必須
半角英数字混合で6文字以上を入力してください。

STEP 05
ご契約情報
マイページ番号
例) 15000000011 (半角数字)
証書番号
例) 01323000001201 (半角数字)
※マイページ番号、証書番号がわからない方はこちら

STEP 06
JA共済 Webマイページ
お名前
漢字名
姓 例) 共済
名 例) 太郎
カナ氏名
セイ 例) キヨサエ
メイ 例) タロウ

STEP 07
完了
JA共済 Webマイページ
Webマイページご登録 お手続き完了
ご登録が完了しました。

**詳しい手順を、
こちらでもご紹介**

※QRコードは(株)デンソーウエーブの
登録商標です。



JA共済アプリ
ダウンロード

App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう



JA共済アプリ
各ストアから検索も可能です。

JA共済アプリでの携帯電話番号のご登録方法

STEP 01
保障の確認
ご案内
お手続き 2
NEW 控除証明書の申請
2023年12月5日
選択
ホーム
お通話
登録情報

STEP 02
ご契約一覧
ご登録情報
住所・電話番号
あざ 氏名（姓）
共済掛金振替口座
各種案内・連絡方法
メールアドレス
携帯番号
登録情報の中から「携帯番号」を選択

STEP 03
携帯番号（JA共済ID）設定
各種お手続きで使用する認証コードを記載したSMSの送付先となる携帯電話番号（JA共済ID）の登録・変更を行います。
携帯電話番号を入力し「次へ」を押してください。
(入力された携帯電話番号が送付されます。)

STEP 04
JA共済 Webマイページ ログアウト
JA共済ID:@ja.jp
認証コードの確認
入力いただいた携帯電話番号宛に送信された認証コードを入力してください。
※SMSが届かない場合は下をご確認のうえ、
番号を入力し、認証コードを再送付してください。

JA共済アプリの画面下部メニューの中から「登録情報」を選択

登録情報の中から「携帯番号」を選択

携帯電話番号を入力ください

認証コードを入力し、ご登録
完了となります

25489000269

災害時等におけるスムーズなご連絡のため

携帯電話番号の ご登録を、お願いたします。



災害時に大切な情報を受け取れない！

災害などで避難されている場合でも、**大切なお知らせ**を**より早く、より確実にお受け取り**いただくため、**携帯電話番号のご登録**をお願いいたします。



契約内容を確認できる書類が手元にない！

JA共済アプリなら、いつでも・どこでも、迷わず、**ご加入の保障内容の確認や、共済金請求等のご連絡**ができるため、**JA共済アプリのご登録**をお願いいたします。

携帯電話番号のご登録方法

JA共済アプリから

- JA共済アプリをインストールいただき、「JA共済IDの新規登録」を選択して、手順に従ってご登録ください。
- 登録完了後、JA共済アプリの下部メニューの「登録情報」より携帯電話番号をご登録ください。

詳しい登録手順は、
当チラシ裏面をご参照ください。



JA共済アプリのほか、Webマイページからの登録も可能です

- 右のQRコードを読み取って、Webマイページの「新規登録」を選択してご登録ください。
- なお、登録手順は、JA共済アプリからの登録と同様です。
当チラシ裏面のSTEP 02～STEP 06をご参照ください。



※QRコードは(株)デンソーウエーブの登録商標です。

ご登録等の操作方法は、オペレーターがサポートします

1 JA共済相談受付センターにお電話ください

0120-536-093

受付時間：9:00～18:00 (月～金曜日)、9:00～17:00 (土曜日)
※日曜日、祝日および12月29日から1月3日を除きます。
※メンテナンスなどにより、予告なく変更する場合があります。

一緒にできるから
安心ですね

2 音声ガイダンスにしたがって、[1] を押してください

JA共済アプリ・Webマイページに関するお問い合わせ窓口につながります。

ご利用者様の端末の画面を共有いただくことで、
オペレーターが確認しながら、登録方法を
ご案内することができます。詳しくは、
オペレーターにお申し出ください。

※端末画面の共有は、一部画面で
ご利用いただけない場合がございます。



安心を、いつでも手元に。
今なら JA共済アプリ 新規登録キャンペーン実施中!

期間：2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火)

先着 1,000円相当の
30万名様 デジタルギフトをプレゼント！

さらに 豪華賞品が
抽選で人気の 当たる！(計600名様)



キャンペーンの
応募方法等の
詳細はこち
ら

※応募には所定の条件がございます。(JA共済アプリをダウンロードのうえ、Webマイページに登録いただいた方が応募いただけます。)